

別添資料

別添 1

平成19年度 モンゴル国別評価調査 現地調査日程

	滞在地	時間	行程	備考
9/26	Wed		花田前大使他ヒアリング(移動前に空港にて) 移動(成田-ウランバートル)	全員 19:30 成田発 23:40 ウランバートル着
27	Thu		ウランバートル 10:00 JICA事務所 11:00 教育・文化・科学省 12:00 大使公邸昼食会(大使、経済協力班) 15:00 ADB 16:30 大蔵省(援助調整政策局)	
28	Fri		ウランバートル 10:00 ウランバートル市都市保全公共施設庁(CMPUA) 11:15 ウランバートル市廃棄物管理改善計画(無)視察 14:00 食糧・農牧業省 15:00 燃料・エネルギー省 16:15 第4火力発電所(無・有)訪問	
29	Sat		ウランバートル 09:00 日本・モンゴル人材開発センター(無・技)訪問 10:30 ウランバートル→ダルハンオール県(木下専門家同行) 13:00 複合農牧業経営モデル構築支援視察 16:45 JOVCヒアリング(於:ダルハン市)	
30	Sun		ウランバートル 11:00 SVヒアリング(於:ハンバレス) 15:00 JOCVヒアリング 17:00 団内打合せ	
10/1	Mon		ウランバートル 10:00 自然環境省 11:30 WB 15:00 道路・運輸・観光省 16:30 ツーステップ・ローンヒアリング 18:30 (FASIDチームのみ 現地コンサルタント打合せ)	池上主任帰国 08:30 ウランバートル発 16:00 成田着
2	Tue		ウランバートル 10:00 GTZ 11:30 水質・気象・環境監視庁 14:00 JICA事務所(案件情報収集) 16:00 ODATFヒアリング	
3	Wed		ウランバートル 08:30 団内打合せ 10:00 建設・都市計画省 11:15 ウランバートル市上下水道公社 14:00 ウランバートル市都市計画(M/P)ヒアリング ゲル地区視察 18:30 国家大会議政策研究所長ヒアリング	
4	Thu		ウランバートル 09:15 UNDP 11:30 USAID 14:30 バガノール地区生活環境整備(草技)視察	
5	Fri		ウランバートル 08:30 団内打合せ 10:00 法務省 11:30 UNFPA 15:00 JICA事務所報告 16:00 大使館報告	
6	Sat		ウランバートル 現地コンサルタント・通訳打合せ 記録整理	窪田アドバイザー、津 下事務官帰国 06:45 ウランバートル発 12:30 成田着
7	Sun		ハラホリン 移動(ウランバートル→ハラホリン)	
8	Mon		ウランバートル 10:00 湿原生態系保全と持続的利用のための集水域管理モデルプロジェクト(技)視察 移動(→ウランバートル)	
9	Tue		ウランバートル 09:30 弁護士会強化計画(技)視察 11:30 JICE事務所(留学生無償関連情報収集) 15:00 ワールド・ビジョン・モンゴリア 16:30 モンゴル野生生物管理基金	
10	Wed		移動(ウランバートル→成田)	藤田、浜岡、菊池 06:45 ウランバートル発 12:30 成田着

別添 2

面談者リスト

(所属先は当時)

国内関係者	
外務省関係者	国際協力局 国別開発協力第一課 津下陽子事務官
	国際協力局 無償資金・技術協力課 平澤千裕事務官
	国際協力局 有償資金協力課 花井郁子事務官
	外務省アジア大洋州局 中国課 モンゴル班 林伸一郎課長補佐
	前モンゴル大使 花田鷹公氏
JICA	アジア第二部東アジアチーム 加藤俊伸チーム長
	アジア第二部東アジアチーム 木村友美氏
	アジア第二部付 小島海氏
JBIC	開発第二部 第一班 高橋園子調査役
	開発第二部 第一班 橋本秀憲氏
その他	成蹊大学 廣野良吉名誉教授
	農林水産省 大臣官房国際部 国際経済課 岩花正仁国際専門官
	バリュープランニング・インターナショナル株式会社 長山勝英代表取締役社長
	国際航業 都市マネジメント部 志村享チーフコンサルタント
	セーブ・ザ・チルドレン 事業部 田沢茂之氏
	セーブ・ザ・チルドレン モンゴル駐在員 上田雅子氏
日本側関係者	
在モンゴル大使館	市橋康吉 特命全権大使
	小林弘之 参事官
	石崎高博 一等書記官
	新見友啓 二等書記官
	平原勝 三等書記官
	村木小百合 三等書記官
JICAモンゴル事務所	守屋勉 所長
	小貫和俊 次長
	宮崎清隆 所員
	B.トゥグルドゥル 所員
	平野里由子 企画調査員
	荒井順一 ボランティア調整員
シニア海外ボランティア	山田康夫氏 (商業経営)
	山崎孚氏 (発電施設保守管理)
	原義廣氏 (都市衛生)
	谷澤英征氏 (都市計画/土地造成)
青年海外協力隊	西村優美氏 (小学校教諭)
	中津川陽子氏 (幼稚園教諭)
	佐藤千草氏 (幼稚園教諭)
	西村優美氏 (小学校教諭)
	小田真之介氏 (環境教育)
	加藤淳氏 (建築)

モンゴル政府関係者	
教育・文化・科学省 Ministry of Education, Culture and Science	Mr. Erdenechimeg Dorjavadan, Director, External Cooperation Division Ms. Zolzaya, Officer
大蔵省 Ministry of Finance (援助調整政策局)	Mr. Ochirkhuu Erdembileg, Director-General, Department of Policy and Coordination for Loans and Aid Mr. Erdenechimeg Dorjavadan, Director, External Cooperation Division Mr. Boldbaatar Gaadulam, Economist, Department of Policy and Coordination for Loans and Aid
食糧・農牧業省 Ministry of Food and Agriculture	Mr. Khanimkhan Ivirai, Director, External Relations and Cooperation Division Ms. Erdenejargal Tumurbaatar, Senior Officer, External Relations and Cooperation Division
燃料・エネルギー省 Ministry of Fuel and Energy	Mr. T. Sukhbaatar Tsegmid, Director General, Department for Policy and Planning Mr. D. Dulguun, Acting Head of International Cooperation Division Mr. T. Saintur, Officer of International Cooperation Division
自然環境省 Ministry of Nature and Environment	Mr. Enkhee Gavaa, Director, International Cooperation Department
道路・運輸・観光省 Ministry of Road, Transport and Tourism	Mr. T. Nyamdavaa, Deputy Director of Finance, Investment and Cooperation Department Ms. Gerelnaym Daramragchaa, Expert of the Road Department
水質・気象・環境調査庁 National Agency of Meteorology, Hydrology and Environment Monitoring	Mr. Tseesodroltsoo Dashdorj, Deputy Director General Mr. Erdenebat Eldev-Ochir, Director, International Cooperation Division Ms. D. Tungalag, Head, Information and Service Division Mr. D. Batdorj, Climate Section, Institute of Meteorology and Hydrology (IMH) Ms. B. Erolenetsetseg, Agro-meteorological section, IMH
建設・都市計画省 Ministry of Construction and Urban Development	Mr. Tsevelsodnom Gankhuu, State Secretary Mr. L. Galbaekrajh, Director of Finance, Investment and Economic Cooperation Mr. Sorogio Ochirbat, Director, Department of Urban Development Policy and Coordination Ms. Oyurchimeg Bold, Officer, Department of Construction, Housing, Public Utilities Policy and Coordination Ms. Gursanjid Bayartungalag, Officer, Department of Investment and Economic Cooperation Mr. Zayat Lkhagvadorj, Officer, Department of Investment and Economic Cooperation
法務省 Ministry of Justice and Internal Affairs	Ms. Ch. Narantuya, Head Mr. G. Uuganbat, Expert
UB市上下水道公社 Ulaanbaatar Water Supply & Sewerage Company	Mr. Purevjav.B, Director Ms. Yanjindulam Zagdaa, Project Manager Mr. Osor Erdenebaatar, Consultant of PIU
UB市都市保全公共施設庁 City Maintenance and Public Utilities Agency (CMPUA)	Mr. Bold Tsegmid, Head Mr. Delgerbayer Badam, Head, Waste Management Division

NGO関係者	
ワールド・ビジョン・モンゴリア World Vision International Mongolia	Mr. Alex Snary, Country Director
	Mr. B. BatBaatar, Zonal Coordinator
モンゴル野生生物管理基金 Mongolia Wildlife Management Fund	Mr. Tserendash Damdin, Executive Director
	Ms. Sundui Natsdagmaa, Director of Training Center
	Mr. Naranbayar Purevsuren, Assistant to the State Secretary, Ministry of Nature and Environment
国際機関／ドナー関係者	
ADBモンゴル事務所	Mr. Adrian H. Ruthenberg, Country Director
	Mr. Shane J. Rosenthal, Sr. Portfolio Management Specialist
	Ms. Tsetsemaa Amar, Economics Officer
WBモンゴル事務所	Mr. Arshad Sayed, Country Manager & Resident Representative
	Ms. Tsolmon Bat-Ochir, Senior Operations Officer
GTZモンゴル事務所	Mr. Martin Marschke, Country Director
	Mr. Johannes von Franz, Programme Coordinator, Regional Economic Development
UNDPモンゴル事務所	野田章子氏, Deputy Resident Representative
	Ms. D., Nergui, Assistant Resident Representative
UNFPAモンゴル事務所	Ms. Delia Barcelona, Representative
	Ms. Navchaa Suren, Assistant Representative
	Ms. Ayush Bazar, Informal Mining and Migration, National Project Coordinator
	Ms. Bolor Zankhuu, Informal Mining and Migration, Project Officer
USAIDモンゴル事務所	Mr. Barry Primm, Representative
案件視察・ヒアリング	
日本・モンゴル人材開発センタープロジェクト(技)	中村光夫 所長
	白石真美 業務調整員
	桜井ちよこ 専門家(日本語コース運営)
留学生支援・人材育成奨学計画(無)	(JICE モンゴル事務所)留学生部 留学生事業課 吉見蘭 プロジェクト・コーディネーター
弁護士会強化計画(技)	飯塚美葉 JICA専門家(法整備支援)
	Mr. Batbileg Lkhagvadorj, Assistant
複合農牧業経営モデル構築支援(技)	木下博晶 JICA専門家 セレンゲ県バヤンゴルソム「アルビジフ経営体」
湿原生態系保全と持続的利用のための集水域管理モデルプロジェクト(技)	佐藤信吾 プロジェクト・コーディネーター Ms. Daribal Amarjargal, プロジェクト・アソシエート Mr. Saruul.D, ウギ湖水監察官
ウランバートル市都市計画マスタープラン(技)	長山勝英氏 (副総括/土地利用計画)
	丸岡健二氏 (交通計画)
	佐々木理恵子氏 (社会調査・社会配慮)
ウランバートル第4火力発電所改修事業 (有)	Mr. Battsend, First deputy director and chief engineer
	Mr. Avarzed, PIU
	Mr. Enkhbaatar, PIU
中小企業育成・環境保全 ツーステップローン事業(有)	Mr. Dashzeveg Chimeddagva, Project Coordinator, Advisor for Bank
	Mr. Chultem Otgonbaatar, Project Advisor for SME
バガヌール地区 生活環境整備(草技)	Ms. Gerelnyam Daramragchaa, 道路・運輸・観光省 道路部
	Mr. Tausnacay Batnasu, バガヌール特別区 第四地区ホロ長
その他	
国家大会議政策研究所	Mr. Gelegpil Chuluunbaatar, 所長

別添 3

モンゴル国別援助評価
国家大会議議員アンケート 集計結果

【国家大会議議員に対するアンケート実施の目的】

- ◆ 外交効果の一つである日本の援助の認知度・貢献度の把握
- ◆ 現在の開発課題に対する認識の把握
- ◆ 将来的な解決に向けたニーズと日本の援助に対する期待

【調査実施時期・方法】

国会大会議議員75名¹に対し、現地コンサルタントを通じ、無記名によるアンケート調査を実施。回答者数51人、回答率 68（％）。

【実施期間】

2007 年 8～10 月。

【以下の集計結果の構成】

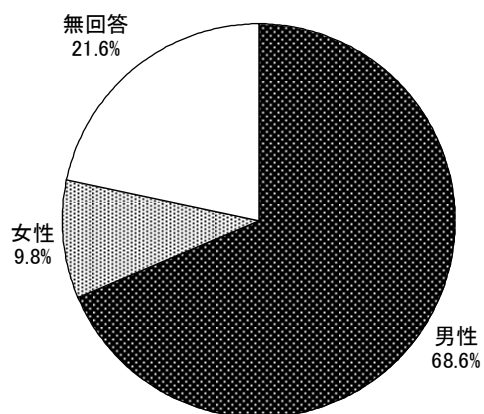
1. 回答者（国家大会議議員）属性：質問票のセクション D に対応
2. モンゴルと日本の関係に関する回答結果：質問票のセクション A に対応
3. 開発ニーズに関する回答結果：質問票のセクション B に対応
4. 将来の日本の ODA に関する回答結果：質問票のセクション C に対応

¹ 国家大会議議員の議席数は 76 であるが、調査期間中 1 名が辞職しており、75 名を対象にアンケートを行った。

1. 回答者（国家大会議議員）属性

1-1. 性別（D1）に関する情報

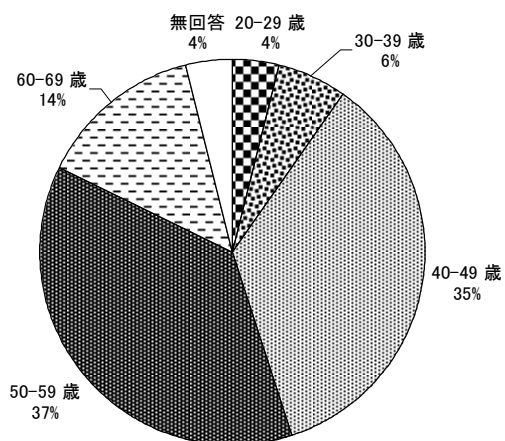
回答数 40 名であり、その内訳は男性 35 名、女性 5 名、無回答者 11 名。



1-2. 年齢層の分布

年齢（D2）に関する回答数 49 名。無回答者 2 名。

20－29 歳...2 名	30－39 歳...3 名	40－49 歳...18 名
50－59 歳...19 名	60－69 歳...7 名	70 歳以上...0 名



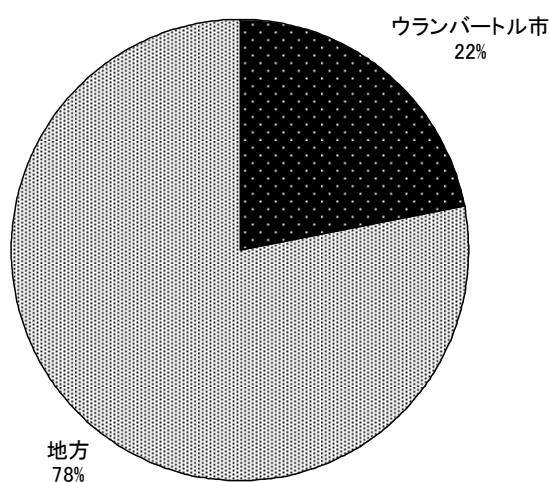
1-3. 出身地の分布

出身地（D3）に関する回答数 51 名。ウランバートル市出身の議員が最大の 12%を占める。

No	地域別	県名	回答者数	%
1	ウランバートル地区	ウランバートル市	6	12%
2	西部地域	バヤンウルギー県	3	6%
3		ゴビアルタイ県	1	2%
4		ザブハン県	4	8%
5		ウブス県	5	10%
6		ホブド県	4	8%
7	中西部地域	アルハンガイ県	4	8%
8		バヤンホンゴル県	0	0%
9		ボルガン県	2	4%
10		オルホン県	0	0%
11		ウブルハンガイ県	3	6%
12		フブスグル県	1	2%
13	中央地域	ゴビスンベル県	0	0%
14		ダルハンオール県	1	2%
15		ドルノゴビ県	3	6%
16		ドンドゴビ県	0	0%
17		ウムヌゴビ県	1	2%
18		セレンゲ県	2	4%
19		トゥブ県	4	8%
20	東部地域	ドルノド県	2	4%
21		ヘンティー県	4	8%
22		スフバートル県	1	2%

1-4. 選挙区地域の分布

選挙区地域（D4）に関する回答数 51 名（全員）。ウランバートル市区選出議員が 22%を占める。



1-5. 所属政党の分布

所属政党（D5）に関する回答者 50 名。内訳は下表に示す通りである。

政党	回答者数	%
人民革命党	32	64%
民主党	14	28%
祖国党	3	6%
市民の意思党	1	2%
共和党	0	0%
人民党	0	0%
国民新党	0	0%

1-6. 議員在職年数の分布

議員勤続年数（D6）に関する回答数 51 名（全員）。4 年未満の議員が最大の 53%を占める。

勤続年数	回答者数	%
1-4 年	27	53%
5-8 年	19	37%
9-12 年	1	2%
13 年以上	4	8%

1-7. 日本への訪問経験

来日経験に対する回答者 47 名のうち 46 名は来日経験を有する。

1-8-1. 海外留学経験

留学経験に関する質問への回答者 49 名中、38 名は留学経験を有する。

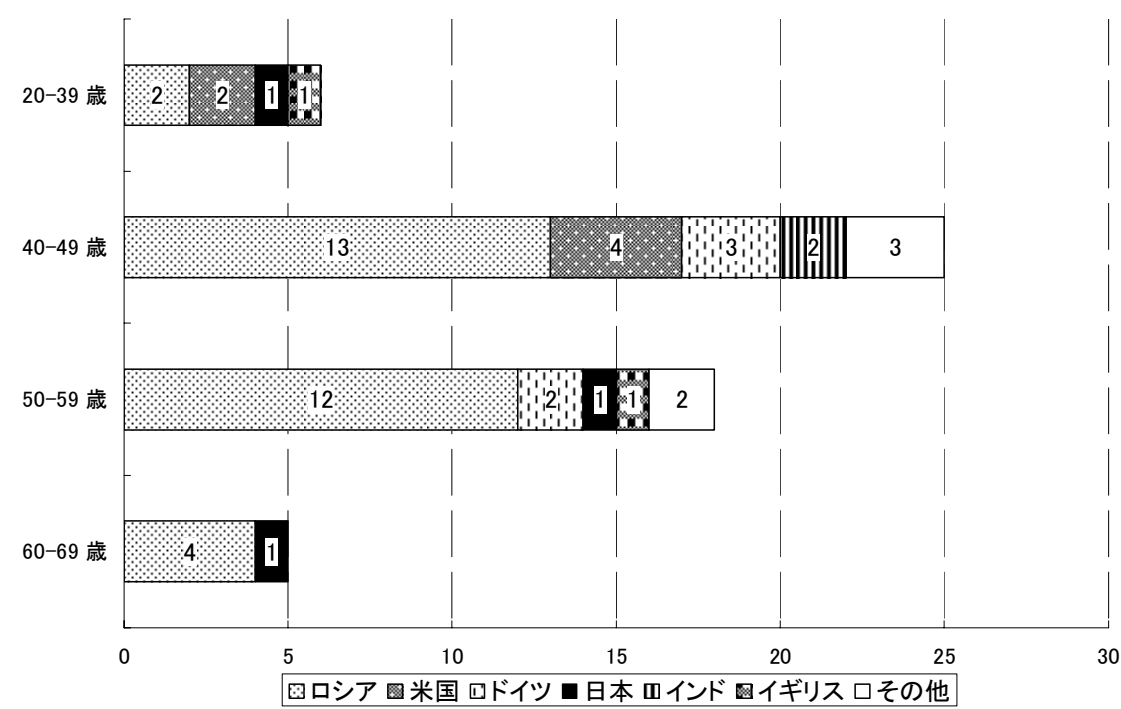
1-8-2. 海外留学先

21 名が 1 カ国、15 名が 2 カ国、1 名が 3 カ国に留学している。回答者 49 名中、ロシア留学経験者が 31 名（57%）を占める。次に、米国が 6 名(11%)、ドイツが 5 名(9%)と続く。日本への留学生は 3 名(5%)である（複数回答）。

国名	回答者数	%
ロシア	31	57%
米国	6	11%
ドイツ	5	9%
日本	3	6%
インド	2	4%
イギリス	2	4%
ポーランド	2	4%
中国	1	2%
オーストラリア	1	2%
チェコ	1	2%
総計	54	100%

[参考] 年齢層と留学先の関係

ロシアへは 20 代から 60 代までの広い世代(31 名)が留学をしているが、議員年齢と留学先との関係には 40 代を境に違いが見られる。39 才以下の若い世代では、留学先の数はロシア(2 名)と米国(2 名)が同じであり、日本(1 名)、イギリス(1 名)が続いている。50～60 代では、留学先はロシア (16 名) が圧倒的に多く、他はドイツ(2 名)、日本(1 名)、イギリス(1 名)、オーストラリア(1 名)となっている。40 代の議員では全体の約半分(13 名)をロシアが占めており、その他では米国、ドイツ、インド等へ留学している。



回答者数は次の通りである。

	20-29 歳	30-39 歳	40-49 歳	50-59 歳	60-69 歳	総計
ロシア	1	1	13	12	4	31
米国	0	2	4	0	0	6
ドイツ	0	0	3	2	0	5
日本	1	0	0	1	1	3
インド	0	0	2	0	0	2
イギリス	1	0	0	1	0	2
ポーランド	0	0	1	1	0	2
中国	0	0	1	0	0	1
オーストラリア	0	0	0	1	0	1
チェコ	0	0	1	0	0	1
総計	3	3	25	18	5	54

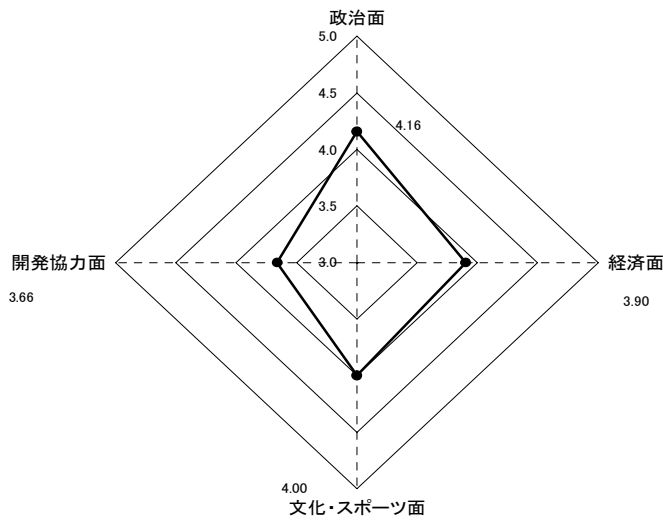
2. モンゴルと日本の関係に関する回答結果

2-1. 日本とモンゴルとの関係

モンゴルと日本の関係をどのように評価するかを「政治」「経済」「文化・スポーツ」「開発協力」の4つの側面から聞いた。平均値で見ると、上位は政治的關係（4.16）、続いて文化・スポーツ、経済、開発協力関係（3.66）の順である。

<レーティングの基準>

5: とても良い 4: 良い 3: 普通 2: 悪い 1: とても悪い 0: 分からない



それぞれの質問項目に関する回答者の分布は次表の通り。

【政治面】：(A1_1) に関する回答数 51 名。

評価	ポイント	回答者数	%
とても良い	5	16	31%
良い	4	28	55%
普通	3	6	12%
悪い	2	1	2%
とても悪い	1	0	0%
分からない	0	0	0%

【経済面】：(A1_2) に関する回答数 51 名。

評価	ポイント	回答者数	%
とても良い	5	12	24%
良い	4	24	47%
普通	3	13	25%
悪い	2	2	4%
とても悪い	1	0	0%
分からない	0	0	0%

【文化・スポーツ面】：(A1_3) に関する回答数 51 名。

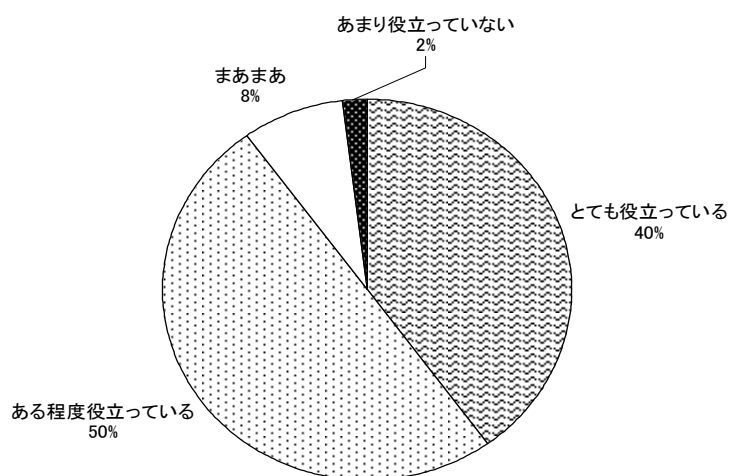
評価	ポイント	回答者数	%
とても良い	5	17	33%
良い	4	21	41%
普通	3	10	20%
悪い	2	2	4%
とても悪い	1	1	2%
分からない	0	0	0%

【開発協力面】：(A1_3) に関する回答数 50 名。

評価	ポイント	回答者数	%
とても良い	5	8	16%
良い	4	24	48%
普通	3	15	30%
悪い	2	1	2%
とても悪い	1	0	0%
分からない	0	2	4%

2-2. 日本の ODA による貢献

質問「日本の ODA がモンゴルに役立っていますか？」(A2) に関する回答数 50 名。平均値は 4.28 である。90%が「とても/ある程度 役立っている」と回答している。

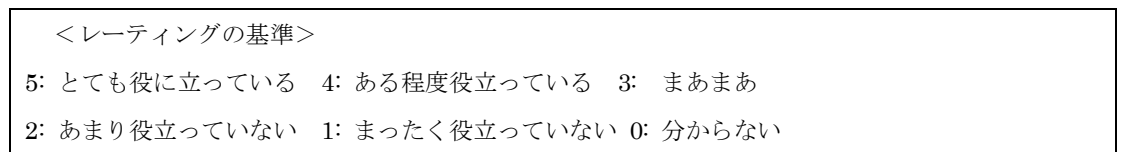


別添資料 3

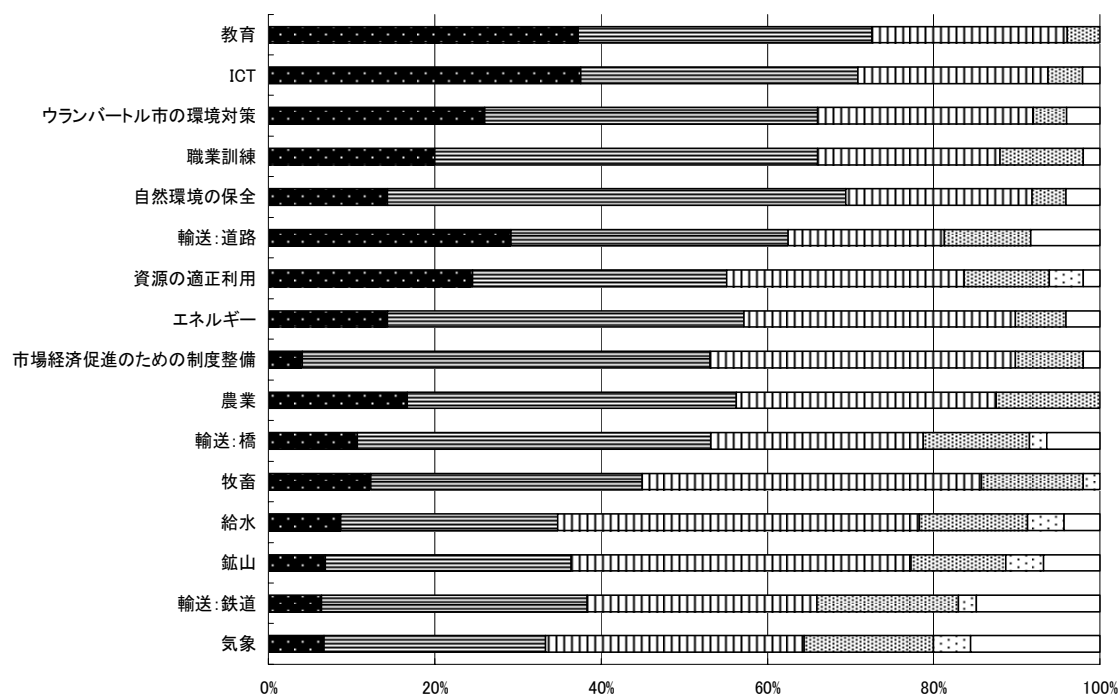
2-3. 日本の ODA による貢献：分野別

質問「日本がこれまでに協力してきた分野（下記）につき、日本の協力をどう評価しますか？」

（A3）に関する平均値は次図の通りである。輸送（鉄道）と気象を除き 3 以上の平均値を得ている。中でも、教育分野、ICT、そしてウランバートル市の環境対策分野での得点が高い。



各分野別の得点分布は次表の通りである。



分野	とても役に立っている	(%)	ある程度役立っている	(%)	まあまあ	(%)	あまり役に立っていない	(%)	まったく役に立っていない	(%)	分からない	(%)	回答者数
教育	19	37%	18	35%	12	24%	2	4%	0	0%	0	0%	51
ICT	18	38%	16	33%	11	23%	2	4%	0	0%	1	2%	48
ウランバートル市の環境対策	13	26%	20	40%	13	26%	2	4%	0	0%	2	4%	50
職業訓練	10	20%	23	46%	11	22%	5	10%	0	0%	1	2%	50
自然環境の保全	7	14%	27	55%	11	22%	2	4%	0	0%	2	4%	49
輸送：道路	14	29%	16	33%	9	19%	5	10%	0	0%	4	8%	48
資源の適正利用	12	24%	15	31%	14	29%	5	10%	2	4%	1	2%	49
エネルギー	7	14%	21	43%	16	33%	3	6%	0	0%	2	4%	49
市場経済促進のための制度整備	2	4%	24	49%	18	37%	4	8%	0	0%	1	2%	49
農業	8	17%	19	40%	15	31%	6	13%	0	0%	0	0%	48
輸送：橋	5	11%	20	43%	12	26%	6	13%	1	2%	3	6%	47
牧畜	6	12%	16	33%	20	41%	6	12%	1	2%	0	0%	49
給水	4	9%	12	26%	20	43%	6	13%	2	4%	2	4%	46
鉱山	3	7%	13	30%	18	41%	5	11%	2	5%	3	7%	44
輸送：鉄道	3	6%	15	32%	13	28%	8	17%	1	2%	7	15%	47
気象	3	7%	12	27%	14	31%	7	16%	2	4%	7	16%	45

2-4. 日本の ODA : プロジェクト別

最も役に立っているプロジェクト (A4)、あまり役立っていないプロジェクト (A5)、そして最も知られている(認知度)プロジェクト (A6) を質問した。

【最も役に立っているプロジェクト】(A4) :

質問「日本の協力のうちどのプロジェクトが最も役立っていると思いますか？」に対して 3 件まで、プロジェクトを列挙してもらった。1 件のみの回答が 11 名、2 件が 13 名、3 件が 6 名、総計で 55 件 (=11+13x2+6x2) の回答を得ている。主な分野、プロジェクト、理由を次表に掲げる。最多は草の根・人間の安全保障無償資金協力の 20 件。

	回答者数	主な理由
草の根無償	20	地方での実施が成功している 自然、生態系、そして教育と広い分野を網羅、地方教育の環境改善

草の根無償以外	回答者数	分野	回答者数	プロジェクト	主な理由
	35	教育	10	奨学金	
				初等・中等教育	地方教育の環境改善
				合気道	
		インフラ	7	第 4 火力発電所	
				自動車道路	品質が良い
				公共輸送	ウランバートル市の道路事情改善
				鉄道 エネルギー 衛星コミュニケーション	
				ICT	ウランバートル市に役立っている 牧民にとって役立っている 喫緊の課題
		環境	2	森林保全	砂漠化防止
		地域開発	1	中小企業支援	
		農業	1		
		その他	14	(内訳) JICA(10), JICE(1), 合気道(1), 日本の ODA(1), KOICA(1)	

【あまり役に立っていないプロジェクト】(A5) :

質問「日本のプロジェクトのうち、あまり役立っていない(less useful)と思うのはどのプロジェクトですか？」に対して 3 件までプロジェクトを列挙してもらったところ、回答者数は 4 名に留まった (1 件のみの回答が 3 名、3 件回答した者が 1 名)。なお挙げられたプロジェクトは全て今回の評価対象期間外で、国別援助計画策定前の案件であった。

No	プロジェクト	場所	主な理由
1	冷凍システム	ダルハンの食肉工場	コストが高く、利点が少ない
2	鉄道		進捗が遅い
3	冷凍システム	ウランバートル市内のミルク工場	コストが高く、利点が少ない
4	ディーゼル発電所	ソムセンター	太陽・風力発電と比して、経済面で非効率
5	小麦貯蔵庫	ハラホリン	ニーズ調査が不十分
6	火災予防に関する技術協力		

別添資料 3

【認知度の高いプロジェクト】(A6)：

質問「日本のどのプロジェクトが最も知られていますか？」に対して 3 件まで、プロジェクトを列挙してもらった。1 件のみの回答が 7 名、2 件が 2 名、3 件が 4 名、総計で 23 件(=7+2x2+4x3)の回答を得ている。主な分野、プロジェクト、理由を次表に掲げる。最多は草の根・人間の安全保障無償資金協力の 10 件。

草の根	回答者数	主な理由
	10	成果がよい 現実的である

草の根無償以外	回答者数	活動/分野	回答者数	プロジェクト
	13	JICA 活動	5	合気道
		JICE 活動	1	
		インフラ	2	自動車道路 ICT
		環境分野	1	森林保全
		農業分野	1	
		その他	3	(内訳) 日本 ODA(1), 殆どすべて(1), KOICA(1)

2-7, 8. 日本の ODA の強みと弱み

質問「日本 ODA の強みと弱みは何だと思いますか？」への回答数は、強みが 15 名、弱みが 8 名であった。以下に全回答を示す。

回答者 ID	強み	弱み
1	詳細な調査、プロセスが明確である。	実施面が弱い。
2	ICT の発展に大きく寄与。	議員は日本のプロジェクトに関して十分な情報を入手していない。
3	調査に基づく優先度の適切な把握。	価格が高い。入札に参加できる企業が数社に限られている。
4	持続性と高い効率。	
5	スピード、量的支援(無償)。	
6	中等教育環境支援、経済発展、そして雇用拡大に寄与。	
7	インフラに重点を置き、産業発展のための経済基盤を集約。	
8	緻密な計算と責任。	一般の人には知名度が低い。
9	日本とモンゴルの関係改善に寄与。	モンゴル側の援助依存度を高め、待ちの姿勢(怠慢な行動)を誘発する。
10	現実性と品質面。	案件の選択に時間がかかりすぎる。それに伴う作業が膨大。
11	日本とモンゴルの関係改善に寄与。	
12	役立ち、ニーズにもあっている。	
13	農業とインフラ部門を支援し、市場経済発展に寄与。	
14	正確で信頼できる。	広報が不十分。
15	開発への貢献。	分野が限定的。

3. 開発ニーズに関する回答結果

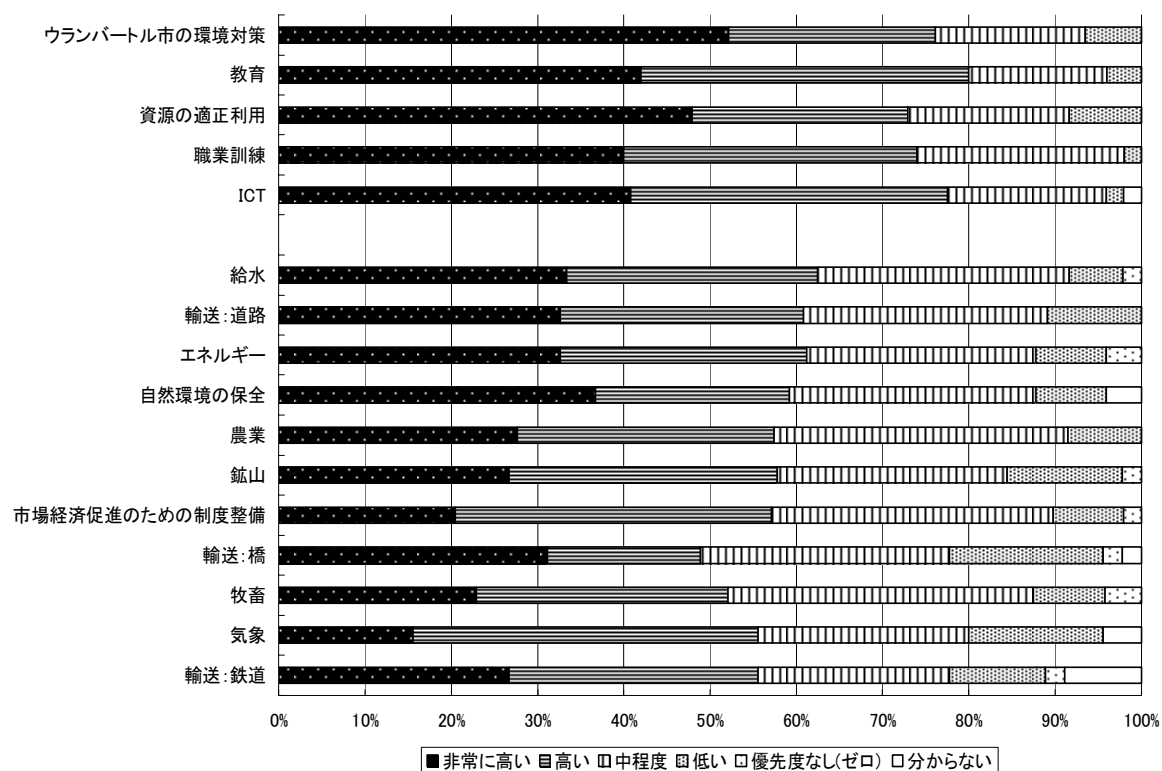
3-1. 優先度の高い分野

質問「モンゴルで、さらに強化すべきと考えられるのはどの分野ですか？」(B1)に関する平均値は次図の通りである。全ての分野で3以上の平均値となっている。教育そして職業訓練分野での得点は依然として高い。ウランバートル市の環境対策(4.22)や資源の適正利用(4.13)へのニーズの優先度も高い。

レーティングの基準

5 非常に高い	4:高い	3:中程度
2:低い	1:ゼロ	0: 分からない

各分野別の得点分布は次表の通りである。



別添資料 3

分野	非常に高い	(%)	高い	(%)	中程度	(%)	低い	(%)	優先度なし(ゼロ)	(%)	分からない	(%)	回答者数
ウランバートル市の環境対策	24	52%	11	24%	8	17%	3	7%	0	0%	0	0%	46
教育	21	42%	19	38%	8	16%	2	4%	0	0%	0	0%	50
資源の適正利用	23	48%	12	25%	9	19%	4	8%	0	0%	0	0%	48
職業訓練	20	40%	17	34%	12	24%	1	2%	0	0%	0	0%	50
ICT	20	41%	18	37%	9	18%	1	2%	0	0%	1	2%	49
給水	16	33%	14	29%	14	29%	3	6%	1	2%	0	0%	48
輸送：道路	15	33%	13	28%	13	28%	5	11%	0	0%	0	0%	46
エネルギー	16	33%	14	29%	13	27%	4	8%	2	4%	0	0%	49
自然環境の保全	18	37%	11	22%	14	29%	4	8%	0	0%	2	4%	49
農業	13	28%	14	30%	16	34%	4	9%	0	0%	0	0%	47
鉱山	12	27%	14	31%	12	27%	6	13%	1	2%	0	0%	45
市場経済促進のための制度整備	10	20%	18	37%	16	33%	4	8%	1	2%	0	0%	49
輸送：橋	14	31%	8	18%	13	29%	8	18%	1	2%	1	2%	45
牧畜	11	23%	14	29%	17	35%	4	8%	2	4%	0	0%	48
気象	7	16%	18	40%	11	24%	7	16%	0	0%	2	4%	45
輸送：鉄道	12	27%	13	29%	10	22%	5	11%	1	2%	4	9%	45

3-2. 遊牧に関する項目

質問「将来のモンゴルの遊牧、そして半定住型牧民(semi-settled herders)に対してどのように思いますか？」(B2) に対し、同意する内容を選択してもらった、結果は次の通りである（複数回答なし）。

質問項目	同意者数	理由
現状のままでよい。	8	理由を掲げている回答無し。
牧民の数はもっと増えたほうが良い。	10	・ GDP 増大ならびに生活水準向上のため。 ・ 近年は地方部は活用されていないため。 ・ 数が減少しているため。 ・ (都市への) 移動・流入が非常に多いため。
政府による保護や補助が必要。	14	・ 現在でも人口の多くが農業に過度に依存しているため。 ・ 牧民に市場経済の知識を持ってもらい、家畜産業を強化するため。 ・ 低所得のため。 ・ 牧民の生活の現状に政府は注意を払う必要がある。 ・ 定住化が必要。
より安定した職業への転職が望ましい。	8	・ 牧民には勉強や他の仕事で雇用を得る機会がない。特に、若者層は未来像が描けない。 ・ 市場状況に見合った農民組織を設立すべき。 ・ 地方での高い失業率 ・ 家で何もしていない人が多すぎる。
その他意見	5	・ 農民支援が必要。 ・ 砂漠化が進行しており、家畜関連産業の強化が必要。 ・ 砂漠化により伝統的な遊牧は困難なため、半定住化促進が必要。 ・ 定住化が必要。 ・ 牧民は孤立しているため、市場経済へのアクセス確保を支援することが必要。

4. 将来の日本の ODA に関する回答結果

4-1. ODA の地域的ニーズ

質問「どの地域を日本の ODA で援助すべきだと思いますか？」(C1) に関する回答数は 50 人、その内訳は次の通りである。ただし、50 名の回答者のうち、5 名が複数選択（2 地域以上にチェック）をしている※。

地域	回答者数
ウランバートル市	14
アイマグセンター（県の中心部）	14
ソムセンター（郡の中心部）	15
農村地域	12
援助不要	0
わからない	0
総計	55

※ 複数選択の内訳は、アイマグとソム（1 名）、ソムと農村（2 名）、アイマグとソムと農村（1 名）、ウランバートル、アイマグ、ソム及び農村（1 名）。

4-2. 各地域の開発分野に関するニーズ

ここでは上表の回答者に質問し、地域ごとの開発ニーズを分野別に質問している（C2）。まず、ウランバートル市を選択した 14 名への質問「ウランバートル市では、どの分野を日本は支援すべきだと思いますか？」に対する回答は、次の通りである。ここでは 52 件（総計）の回答があった。表中の％は質問(C1)に回答した 50 名に対する割合である。

	分野	回答数	％	理由
1	ウランバートル市の環境対策	10	20.0%	
2	輸送：道路	7	14.0%	状態が悪い。改善が必要。
3	自然環境の保全	6	12.0%	
4	市場経済促進のための制度整備	5	10.0%	雇用機会が少なく失業率高い。
5	エネルギー	5	10.0%	地方から都市への移住増加。
6	資源の適正利用	3	6.0%	
7	教育	3	6.0%	子供たちは我々の将来。
8	職業訓練	3	6.0%	
9	ICT	3	6.0%	
10	給水	3	6.0%	砂漠化による水不足。
11	農業	1	2.0%	
12	輸送：鉄道	1	2.0%	
13	牧畜	1	2.0%	
14	輸送：橋	1	2.0%	

別添資料 3

同様に、アイマグセンター（県を中心部）を選択した 14 名への質問に対する回答は次の通りである。ここでは 31（総数）の回答があった。

	分野	回答数	%	理由
1	職業訓練	7	12.0%	
2	牧畜	5	10.0%	盗難からの家畜の保護が必要。牧草地が不足している。
3	輸送：道路	5	10.0%	状況が悪い。
4	資源の適正利用	4	8.0%	
5	市場経済促進のための制度整備	3	6.0%	雇用機会が少なく失業率高い。
6	農業	3	6.0%	家畜関連産業の強化が必要
7	給水	2	4.0%	人々や牧草地のための水供給が必要。きれいな水の需要が大きい。
8	教育	1	2.0%	技術不足のため職に就けない。
9	エネルギー	1	2.0%	
10	ICT	1	2.0%	

ソムセンター（郡を中心部）を選択した 15 名への質問に対する回答は次の通りである。ここでは 25（総数）の回答があった。

	分野	回答数	%	理由
1	職業訓練	4	8.0%	専門性のない人が失業している。
2	農業	4	8.0%	家畜関連産業の生産面での非効率。
3	給水	3	6.0%	
4	資源の適正利用	3	6.0%	金鉱があるウブルハンガイ県のウル谷での状況がひどい。
5	エネルギー	3	6.0%	
6	教育	2	4.0%	
7	ICT	2	4.0%	
8	輸送：道路	1	2.0%	
9	輸送：橋	1	2.0%	
10	鉱山	1	2.0%	
11	市場経済促進のための制度整備	1	2.0%	

農村地域を選択した 12 名への質問に対する回答は次の通りである。ここでは 30（総数）の回答があった。

	分野	回答数	%	理由
1	農業	8	16.0%	支援が必要。
2	資源の適正利用	7	14.0%	資源の非効率な利用。
3	牧畜	4	8.0%	
4	ICT	3	6.0%	
5	給水	2	4.0%	供給不足。
6	教育	1	2.0%	
7	職業訓練	1	2.0%	
8	自然環境の保全	1	2.0%	
9	ウランバートル市の環境対策	1	2.0%	
10	輸送：道路	1	2.0%	
11	気象	1	2.0%	

4-3. 日本の ODA に関するコメント（自由記述）

最後に、日本 ODA に関する自由意見を聞いたところ、7 名が次の回答をしている。

No	意見
1	ビジョンを広げ、地域との協力を強化。
2	モンゴルにとって役立つ多くのプロジェクトが実施された。
3	全般的に評価は良い。
4	良い。
5	成果が良い。
6	満足がいくものである。
7	拡大する必要がある。

別添 4

Survey on Japanese Official Development Assistance (ODA)

August, 2007

Request for Cooperation

Who we are:

We are an evaluation team commissioned by the Ministry of Foreign Affairs of Japan for the Country Assistance Evaluation of Mongolia. Our task is to evaluate Japan's Country Assistance Program for Mongolia, formulated in 2004.

The country assistance evaluation is a part of evaluation of Official Development Assistance (hereinafter referred to "ODA") in Japan, which is conducted for countries selected among countries for which a ODA country policy and Country Assistance Program has been formulated. Mongolia is one of the selected countries for the country assistance evaluation to be implemented in 2007. The field survey in Mongolia will be conducted in September-October 2007 by an evaluation team led by a member of the External Advisory Board on ODA Evaluation, which is an advisory body of the Director-General of the International Cooperation Bureau of the Ministry of Foreign Affairs of Japan.

The purpose of this evaluation:

The purpose of this evaluation study is

- to evaluate Japanese assistance to Mongolia based on the Country Assistance Program in terms of its purpose, process of planning and implementation, and results,
- to obtain lessons-learned for better implementation, and
- to make suggestions for conducting more effective and efficient assistance in the future.

The evaluation results will be utilized for improving Country Assistance Program.

The purpose of this survey:

As a part of this evaluation, we are conducting a survey on Japanese ODA using a questionnaire (follows) for the members of the Great Hural in order to learn

- Mongolia-Japan relationship,
- Japan's ODA - past and future -
- Mongolia's development priorities.

We realize importance of the opinions of the representatives of the people in Mongolia. The information collected in the questionnaire is strictly confidential. If you cannot answer the questions, please skip to the next question. We would greatly appreciate if you could provide us your frank opinion and ideas.

Mongolia Country Assistance Evaluation Team

Team Leader
Kiyoko Ikegami

Questionnaire on Japanese ODA

SECTION A: MONGOLIA-JAPAN RELATION AND ODA

A1:	How do you evaluate the general relationship between Mongolia and Japan? (Please circle one response according to the 5 grades below)		
	5:Very Good 4:Good 3:Fair 2:Bad 1:Very bad 0: Don't know		
A1_1	Political Relations	5, 4, 3, 2, 1, 0	
A1_2	Economic Relations	5, 4, 3, 2, 1, 0	
A1_3	Cultural and Sports Relations	5, 4, 3, 2, 1, 0	
A1_4	Development Cooperations	5, 4, 3, 2, 1, 0	
[Comments, if any]			
A2.	Do you think Japanese ODA to Mongolia has been useful?	Very useful..... To some extent useful..... Fair..... Not very useful..... Not useful at all..... Don't know.....	5 4 3 2 1 0
A3. Japan has cooperated in the following sectors so far. How do you evaluate the usefulness of this cooperation? (Please circle one response according to the 5 grades mentioned below) 5:Very useful 4:To some extent useful 3:Fair 2:Not very useful 1:Not useful at all 0: Don't know			
A3_1	Education	5, 4, 3, 2, 1, 0	
A3_2	Vocational Training	5, 4, 3, 2, 1, 0	
A3_3	Institution building for promoting a market economy (support for the improvement of legal and administrative framework)	5, 4, 3, 2, 1, 0	
A3_4	Livestock	5, 4, 3, 2, 1, 0	
A3_5	Farming	5, 4, 3, 2, 1, 0	
A3_6	Preservation of the natural environment	5, 4, 3, 2, 1, 0	
A3_7	Appropriate utilization of natural resources	5, 4, 3, 2, 1, 0	
A3_8	Measures against environmental problems in Ulaanbaatar	5, 4, 3, 2, 1, 0	
A3_9	Energy	5, 4, 3, 2, 1, 0	
A3_10	Transportation (Road)	5, 4, 3, 2, 1, 0	
A3_11	Transportation (Bridge)	5, 4, 3, 2, 1, 0	
A3_12	Transportation (Railroad)	5, 4, 3, 2, 1, 0	
A3_13	ICT (Information Communication Technology)	5, 4, 3, 2, 1, 0	
A3_14	Water supply	5, 4, 3, 2, 1, 0	
A3_15	Mining	5, 4, 3, 2, 1, 0	

SECTION A: MONGOLIA-JAPAN RELATION AND ODA			
A3_16	Meteorology	5, 4, 3, 2, 1, 0	
A3_17	Other (specify _____)	5, 4, 3, 2, 1, 0	
[Comments, if any]			
A4: Which Japanese projects do you think were/are THE MOST USEFUL? (Please list project name, location, etc. with reasons (up to 3 projects))			
	Project name	Location, etc.	Reasons
A4_1			
A4_2			
A4_3			
A5: Which projects do you think were/are LESS USEFUL among others? (Please list project name, location, etc. with reasons (up to 3 projects))			
	Project name	Location, etc.	Reasons
A5_1			
A5_2			
A5_3			
A6: Which Japanese projects do you KNOW BEST ?(please list project name, location, etc. (up to 3 projects))			
	Project name	Location, etc.	Remarks
A6_1			
A6_2			
A6_3			
A7: What are the strengths of Japanese ODA in your opinion?			
A8: What are the weaknesses of Japanese ODA in your opinion?			

SECTION A: MONGOLIA-JAPAN RELATION AND ODA

SECTION B: GENERAL DEVELOPMENT NEEDS

B1: Which sectors in Mongolia are prioritized to be further strengthened?

5:Very high priority
2:Low priority

4:High priority
1:Zero priority

3:Medium priority
0: Don't know

B1_1	Education	5, 4, 3, 2, 1, 0
B1_2	Vocational Training	5, 4, 3, 2, 1, 0
B1_3	Institution building for promoting a market economy (support for the improvement of legal and administrative framework)	5, 4, 3, 2, 1, 0
B1_4	Livestock	5, 4, 3, 2, 1, 0
B1_5	Farming	5, 4, 3, 2, 1, 0
B1_6	Preservation of the natural environment	5, 4, 3, 2, 1, 0
B1_7	Appropriate utilization of natural resources	5, 4, 3, 2, 1, 0
B1_8	Measures against environmental problems in Ulaanbaatar	5, 4, 3, 2, 1, 0
B1_9	Energy	5, 4, 3, 2, 1, 0
B1_10	Transportation (Road)	5, 4, 3, 2, 1, 0
B1_11	Transportation (Bridge)	5, 4, 3, 2, 1, 0
B1_12	Transportation (Railroad)	5, 4, 3, 2, 1, 0
B1_13	ICT (Information, Communications Technology)	5, 4, 3, 2, 1, 0
B1_14	Water supply	5, 4, 3, 2, 1, 0
B1_15	Mining	5, 4, 3, 2, 1, 0
B1_16	Meteorology	5, 4, 3, 2, 1, 0
B1_17	Other (specify _____)	5, 4, 3, 2, 1, 0
B1_18	Other (specify _____)	5, 4, 3, 2, 1, 0

[Comments, if any]

B2: What do you think of the future of nomads and semi-settled herders in Mongolia?
 Please enter **【✓】** in any number of boxes below and tell us why.

	✓ ↓		reasons
B2_1		They should remain as it is	because ()
B2_2		They should increase	because ()

SECTION A: MONGOLIA-JAPAN RELATION AND ODA			
B2_3		The government should subsidize and protect them	because ()
B2_4		They had better find other stabler jobs	because()
B2_5		Other opinion (please specify)	because ()
SECTION C: JAPANESE ODA in future			
C1:	Which area should be assisted by Japanese ODA in your opinion? (Please circle any numbers on the right & proceed to the respective questions)	Ulaanbaatar..... Aimag centers..... Sum centers Rural area..... No assistance is necessary..... Don't know.....	1 →Go to 2 C2 3 →Go to 4 C3 5 →Go to 6 C4 →Go to C5 →Go to D1 →Go to D1
C2: (If your answer is "1" in C1 above,) which sectors should Japan support in <u>Ulaanbaatar</u> ? Please fill in up to three by referring to the sectors listed on the right.			List of Sectors (Please choose # and enter in boxes on the left) ↓
	Sector (number)	Reasons (if any)	1. Education 2. Vocational training 3. Institutional building for promoting market economy 4. Livestock 5. Farming 6. Preservation of the natural environment 7. Appropriate utilization of natural resources 8. Measures against environment problems in Ulaanbaatar 9. Energy 10. Transportation (Road)
C2_1			
C2_2			
C2_3			
C3: (If your answer is "2" in C1 above), which sectors should Japan support in <u>Aimag centers</u> ? Please fill in up to three by referring to the sectors listed on the right.			
	Sector (number)	Reasons (if any)	
C3_1			
C3_2			
C3_3			
C4: (If your answer is "3" in C1 above), which sectors should Japan support in <u>Sum centers</u> ? Please fill in up to three by referring to the sectors listed on the right.			
	Sector (number)	Reasons (if any)	
C4_1			

SECTION A: MONGOLIA-JAPAN RELATION AND ODA			
C4_2			11. Transportation (Bridge) 12. Transportation (Railroad) 13. ICT 14. Water supply 15. Mining 16. Meteorology 17. Other (specify____) 18. Other (Specify____)
C4_3			
C5: (If your answer is "4" in C1 above), which sectors should Japan support in <u>rural area</u> ? Please fill in up to three by referring to the sectors listed on the right.			
	Sector (number)	Reasons (if any)	
C5_1			
C5_2			
C5_3			
[Comments, if any]			
C6: Please give your general comments with regard to the Japanese ODA			
SECTION D: GENERAL INFORMATION			Circle one #
D1.	Sex	Male..... Female.....	1 2
D2.	Age:	20-29 years..... 30-39 years..... 40-49 years..... 50-59 years..... 60-69 years..... 70 years -	1 2 3 4 5 6
D3.	Province(aimag) of your origin	Ulaanbaatar..... Orkhon Aimag..... Darkhan-Uul Aimag..... Khentii Aimag..... Khövsgöl Aimag..... Khovd Aimag..... Uvs Aimag..... Töv Aimag..... Selenge Aimag..... Sükhbaatar Aimag..... Ömnögovı Aimag..... Övörkhangaı Aimag..... Zavkhan Aimag..... Dundgovı Aimag..... Dornod Aimag..... Dornogovı Aimag..... Govısumber Aimag..... Govı-Ałtaı Aimag..... Bulgan Aimag..... Bayankhongor Aimag..... Bayan-Ölgii Aimag..... Arkhangai Aimag.....	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22
D4.	Which area does your constituency belong to?	Ulaanbaatar..... Aimag centers.....	1 2

SECTION A: MONGOLIA-JAPAN RELATION AND ODA			
		Sum centers	3
		Rural area.....	4
D5.	Which political party do you belong to?	Mongolian People's Revolutionary Party	1
		Democratic Party	2
		Civic Will Party	3
		Republican Party.....	4
		Motherland Party	5
		People's Party.....	6
		New People's Party.....	7
D6.	How many years have you served as a parliamentary member?	1-4 years.....	1
		5-8 years.....	2
		9-12 years.....	3
		Over 13 years.....	4
D7.	Have you ever been to Japan?	Yes.....	1
		No.....	2
D8.	Have you ever studied abroad?	Yes.....	1 => D9
		No.....	2
D9.	In which country did you study?	(1)	(3)
		(2)	(4)

Thank you very much for your cooperation!!

Mongolia Country Assistance Evaluation Team

別添 5

モンゴル MDGs 進捗状況

MDGs	ターゲット(達成年 2015 年、比較基準年 1990 年)	ベース				ターゲット
		1990	2000	2005	2006	2015
目標 1. 極度の貧困と飢餓の撲滅	ターゲット 1 低所得者の割合	36.30	35.60	...	32.20	18.00
	ターゲット 2 低栄養摂取者の割合	12.00	12.70	6.30	...	0
	ターゲット 3 若者の就業率向上	...	...	...	...	...
	ターゲット 4 人口移動に関する制度整備	...	...	...	...	...
目標 2. 初等教育の完全普及	ターゲット 5 全児童の初等教育の普及					
	ターゲット 5 指標 1 初等教育の就学率	97.50	95.00	95.60	91.40	100.0
	ターゲット 5 指標 2 初等教育課程(1- 5 年生まで)修了割合	91.00	83.60	101.20	86.80	100.0
	ターゲット 5 指標 3 15-24 歳の職字率	99.00	97.70	98.8	98.8	100.0
目標 3. ジェンダーの平等、女性のエンパワメントの達成	ターゲット 6 初等、中等教育の男女格差の解消					
	ターゲット 6 指標 1 初等教育の男子女子生徒の比率	1.01	1.01	0.98	0.98	1
	ターゲット 6 指標 2 一般教育の男子女子生徒の比率	1.12	1.2	1.11	1.03	1
	ターゲット 6 指標 3 大学の男女学生の比率	1.56	1.72	1.53	1.53	1
	ターゲット 6 指標 4 非農業部門の女性賃金労働者の割合	51.1	50.4	53.1	53.9	50
	ターゲット 6 指標 5 国会の女性議員の割合	24.9	11.8	6.6	...	30
	ターゲット 6 指標 6 国会選挙の女性候補者の割合	7.7	10.9	13.7	...	35
目標 4. 子供の死亡率削減	ターゲット 7 5 歳未満児の死亡率を比 3 分の 2 減少					
	ターゲット 7 指標 1 5 歳未満児の死亡率(千人あたり)	88.8	44.5	26	23.2	29.2
	ターゲット 7 指標 2 乳幼児死亡率(千人あたり)	64.4	32.8	20.7	19.1	22
	ターゲット 7 指標 3 はしか予防接種(幼児割合)	82.3	92.4	97.5	98.9	96
目標 5. 妊産婦の健康の改善	ターゲット 8 妊産婦の死亡率を 4 分の 3 減少					
	ターゲット 8 指標 1 妊産婦の死亡率 (10 万人あたり)	121.6	166.3	92.7	67.2	50
	ターゲット 8 指標 2 医療従事者立会い出産の割合	100	99.6	...	99.7	99.8
目標 6. HIV/AIDS、マラリアなどの疾病の蔓延防止	ターゲット 9 HIV/AIDSウイルスの感染制限、予防	...	...	...	...	...
	ターゲット 10 結核の蔓延を減少					
	ターゲット 10 指標 1 新規結核患者数 (10 万人あたり)	79	124.8	177.4	185.3	100
	ターゲット 10 指標 2 結核による死亡率 (10 万人あたり)	4.8	3.2	3.4	2.9	0
	ターゲット 10 指標 3 結核と診断された患者のうち、DOTS(*)によって完治する患者の割合	31.4	80.9	79	82.1	100
	ターゲット 11 対菌周病特別プログラムの実施	...	...	...	...	...

(続き)

目標 7. 持続可能な環境づくり	ターゲット 12 都市住宅地区(特にウランバートル市)の大気汚染を削減					
	ターゲット 12 指標 1 国土面積に対する森林面積の割合	7.8	8.5	7.8	7.7	9
	ターゲット 12 指標 2 保護区の割合	3.6	13.1	13.3	13.3	30.0
	ターゲット 12 指標 3 一人当たり CO2 排出量(トン/人)	11.52	6.57	5.75	...	4
	ターゲット 13 川、泉の水源の保護・再生による蒸発の減少	...	...	...	...	...
	ターゲット 14 安全な飲料水を利用不可能な人の割合を半減	...	...	...	...	...
	ターゲット 14 指標 1 安全な飲料水を利用できる人の割合	55	66.2	...	...	70
	ターゲット 15 スラム地区の人々の生活改善	...	...	...	...	...
目標 8. グローバルな開発パートナーシップの構築	ターゲット 15 指標 1 適切な衛生環境で生活する人の割合	22.6	23	...	...	50
	ターゲット 16 貿易や金融制度発展させ MDGs 実現のための環境づくり	...	...	...	...	...
	ターゲット 17 モンゴル国に有益な条件で海への出口を開拓し、海外への通過貨物の効率化、国内の通過貨物量の増加	...	...	...	...	...
	ターゲット 18 国家予算・経済に負担のない債務調整・返済	...	...	...	...	...
目標 9. 人権を保障し、民主的なガバナンスを推進	ターゲット 19 IT 新技術の開発による“情報化された社会づくり”	...	...	...	...	...
	ターゲット 20 人権尊重・メディアの自由・情報公開	...	...	...	...	...
	ターゲット 21 民主主義の原則の普及	...	...	...	...	...
	ターゲット 22 汚職がない社会の確立	...	...	...	...	...

出所: Government of Mongolia(2007c)

注(*) :DOTS(Directly Observed Treatment Short Course):直接監視下短期化学療法のこと、結核感染者が抗結核薬を服用するのを、保健医療従事者や研修を受けて認定を受けた者が直接監視・記録しながら結核を治療する方法。

別添 6

参考文献リスト

1) 日本側政策文書

- 外務省 (1992) 「政府開発援助大綱(旧 ODA 大綱)」
 ——— (1999) 「旧 ODA 中期政策」
 ——— (2003) 「政府開発援助(ODA)大綱」
 ——— (2004) 『対モンゴル国別援助実施計画』
 ——— (2005) 「政府開発援助に関する中期政策」
 ——— 「ODA 白書」各年版
 ——— 『政府開発援助(ODA)国別データブック』各年版
 国際協力機構 (2001) 「平成 13 年度 JICA 国別事業実施計画 モンゴル」、2001 年 6 月
 ———(2003a) 「平成 15 年度 JICA 国別事業実施計画 モンゴル」、2003 年
 ———(2006a) 『JICA 国別事業実施計画 モンゴル国』(2006 年 12 月改訂)
 ———(2007) 『国際協力機構 2007』
 国際協力銀行 (2005) 『モンゴル国 国別業務実施方針(2005 年度)』、開発第 2 部

2) モンゴル側政策文書

- Government of Mongolia (2000) *Action Plan of the Government of Mongolia for 2000 - 2004*.
 ----- (2001) *THE GOVERNMENT OF MONGOLIA GOOD GOVERNANCE FOR HUMAN SECURITY PROGRAMME, POLICY DOCUMENT, Ulaanbaatar, January 2001*.
 ----- (2003) *Economic Growth Support and Poverty Reduction Strategy*, Ulaanbaatar, July 3 2003.
 ----- (2004) *Action Plan of the Government of Mongolia for 2004 - 2008*.
 ----- (2006a) *MASTER PLAN TO DEVELOP EDUCATION OF MONGOLIA IN 2006-2015*.
 ----- (2007a) *Implementing the Master Plan to Develop Education of Mongolia for 2006-2015. Annual Implementation Plan for 2008 June 2007*.
 ----- (2007b) *Millennium Development Goals-Based Comprehensive National Development Strategy of Mongolia (Draft)*, Taskforce to develop comprehensive national development strategy.
 ----- (2007c) 『MDGs 進捗報告書』

3) マクロデータ・資料

- 外務省中国課 (2006) 「モンゴル国統計資料 2005 年度版」 2006 年 10 月
 世界銀行 (2007) 『世界開発報告 2007』
 Asian Development Bank (2007) *KEY INDICATORS 2007*
 National Statistical Office of Mongolia (2005) *MONGOLIAN STATISTICAL YEARBOOK 2004*.

----- (2006) *MONGOLIAN STATISTICAL YEARBOOK 2005*.
----- (2007a) *MONGOLIAN STATISTICAL YEARBOOK 2006*.
----- (2007b) *Mongolia Multiple Indicator Cluster Survey (Child and Development Survey) 2005-2006 Key Findings*.
OECD (2007) *Geographical Distribution of Financial Flows to Aid Recipients 2001/2005*.
----- *International Development Statistics (IDS) online Databases on aid and other resource flows* <http://www.oecd.org/dataoecd/50/17/5037721.htm>
UNDP (2007) 『人間開発報告書 2006』
World Bank *World Development Indicators* 各年版

4) 国際機関／ドナー資料

ADB (2004) *Mongolia Country Strategy and Program Update 2005-2006*.
----- (2005) *Mongolia Country Strategy and Program Update 2006-2008*.
----- (2006) *Mongolia Country Strategy and Program Update 2007-2009*.
GTZ (2007) *Cooperation with a country between tradition and modernity*.
UNDAF (2006) *MONGOLIA 2007-2011*.
UNFPA (2007a) *HELPING BUILD A BETTER FUTURE*.
----- (2007b) *Fourth Country Programme (2007-2011)*.
----- (2007c) *Informal Mining and Migration Project*.
UNICEF (2007) *SITUATION ANALYSIS OF CHILDREN AND WOMEN IN MONGOLIA*.
USAID (2007a) *Brief History of USAID Development Strategies, Programs And Accomplishments in Mongolia 1991-2007*.
----- (2007b) *CURRENT PROGRAM*.
World Bank (2004) *Mongolia Country Assistance Strategy 2004-2007*.
----- (2007a) *MONGOLIA Catalyst for Development: Rethinking the Delivery of Infrastructure Service in Mongolia*, June 2007.
----- (2007b) *MONGOLIA Source of Growth*, July 26 2007.
----- (2007c) *MONGOLIA QUARTERLY*, November 2007.

5) セクター別資料

5-1) 市場経済を担う制度整備・人材育成

久保田優 (2005) 「業務完了報告書(最終)」、2005 年 5 月 27 日
小出達夫 (2005) 「業務完了報告書」、2005 年 5 月 2 日
国際協力機構 (2003b) 『モンゴル国 教員再訓練計画 技術協力プロジェクト事前評価調査団報告書』
—— (2004a) 『モンゴル国 民間セクター支援プログラム形成調査報告書』
—— (2005a) 『モンゴル国 会計・監査機能向上プロジェクト 事前評価調査報告書』

- (2005b) 『モンゴル国 教育指導法改善プロジェクト プロジェクト形成調査報告書』
- (2005c) 『モンゴル国 税務教育システム構築調査 ファイナルレポート(要約)』
- (2005d) 『モンゴル国 税務強化プロジェクト 事前評価調査報告書』
- (2005e) 『モンゴル国 民間セクター支援 プロジェクト形成調査報告書』
- (2007) 『モンゴル日本人材開発センタープロジェクト終了時報告書』 ドラフト
- 国際協力機構、毛利建築設計事務所 (2004) 『モンゴル国 第三次初等教育施設整備計画 基本設計調査報告書』
- 国際協力機構、無償資金協力部 (2005) 『モンゴル国 第二次初等教育施設整備計画 事業化調査報告書』
- 国際協力事業団 (2001) 『モンゴル国 プロジェクト形成調査(教育分野)結果資料』
- JICE JDS モンゴル事務所 (2007) 「モンゴルにおける JDS 事業に関して」
- 相談・調停センター (2007) 「相談・調整センター収支報告書」
- 田邊正紀 (2006) 「専門家業務完了報告書」、2005 年 6 月 25 日
- モンゴル国政府 (2007) 「弁護士法案」
- モンゴル国政府決定 (2006) 「政府行動プラン実施計画書の改定に関して」

5-2) 地方開発

- 岩花正仁 (2006) 「専門家業務完了報告書」、2006 年 6 月
- 国際協力機構 (2004b) 『モンゴル国農牧業分野基礎調査報告書』
- 国際協力機構 (2006b) 『モンゴル国複合農牧業経営モデル構築支援事前評価調査・実施協議報告書』
- 国際協力事業団 (2003a) 『モンゴル国 家畜感染症診断技術改善計画 終了時評価報告書』
- 小宮山博(2006)「市場経済施行後の牧畜業の推移」、『日本とモンゴル』、第 40 巻 第 2 号、社団法人日本モンゴル協会
- 食糧農牧省 (2006) 『食料農牧分野の政策及び実施状況 2006 年』
- 『食糧農牧省予算 2001-2007』
- (2007) *Information for Discussion for the Committee concerning the Food Aid (KR) in Fiscal Year 2006.*
- 白須孝 (2004) 「回復しつつある成長趨勢-」、『モンゴル研究会報告書』、JETRO 海外調査部
- 鈴木由紀夫 (2004) 「専門家業務完了報告書」、2004 年 6 月
- 鈴木由紀夫(2007)「モンゴルにおける耕種農業の現状」、『日本とモンゴル』、第 40 巻 第 2 号、社団法人日本モンゴル協会
- 社団法人 畜産技術協会『平成 16 年度 畜産分野における告別援助計画基礎資料 モンゴル編』、平成 17 年 3 月
- パシフィックコンサルタンツインターナショナル (2006) 『モンゴル国 ゾド対策に向けた地方牧畜業体制改善支援計画調査(和文要約)』
- FAO/UNICEF/UNDP (2007) *Joint Food Security Assessment Mission to Mongolia.*

Gov't Resolution No. 23/2003 Food and Agriculture Policy of Government of Mongolia

5-3)環境保全

ウランバートル市 (2003) 『モンゴル国内地上水統計報告書』

気象・水文・環境監視庁 (2007) 「State of Air Quality (大気汚染指標)」

櫛谷圭司、加藤陽子、黒田貴子、北村優二、石沢幸 (2007) 「ウランバートルのゲル地域における住民の意向と日常活動」、『環日本海研究年報』、第 14 号

国際協力機構モンゴル事務所 (2007) 『モンゴル 大気汚染改善プロジェクト形成調査中間報告』

国際協力機構 (2004c) 『集団研修実施報告書 都市廃棄物処理 II』

—— (2005f) 『集団研修実施報告書 都市廃棄物処理 II』

—— (2005g) 『研修実施報告書 地域別研修 東アジア酸性雨モニタリングネットワーク技術』

—— (2006c) 『モンゴル国 気象予測及びデータ解析のための人材育成プロジェクト運営指導調査報告書』

—— (2006d) 『モンゴル国 気象予測及びデータ解析のための人材育成プロジェクト実施協議報告書』

—— (2006e) 『モンゴル国 湿原生態系保全と持続的利用のための集水域管理モデルプロジェクト事前評価調査報告書』

—— (2006f) 『モンゴル国 気象予測及びデータ解析のための人材育成プロジェクト中間評価調査報告書』

—— (2006g) 『集団研修実施報告書 都市廃棄物処理 II』

国際協力事業団 (2003b) 『モンゴル国 気象情報ネットワーク改善計画 基本設計調査報告書』

国際航業株式会社 (2007a) 『モンゴル国ウランバートル市 廃棄物管理計画調査 最終報告書 日本語要約』

自然環境省 (2006) 『自然環境報告書 2004-2005』

—— (2007) 『自然環境省 2006 年度事業報告書』

モンゴル国政府決定 (2007) 「大気汚染防止措置法」

『環境かわら版』 Web 版、「ウランバートル市廃棄物管理計画」における SV の活動について」、2006 年 12 月 22 日号

『環境省 予算 2001-2008』

『CMPUA 2007 年度予算』

Enkhbat, A. (2006) 'Policy and Challenges on Environment in Mongolia,' Mongolia: External Partners – GoM Technical Meeting, 9-10 October 2006, Ulaanbaatar.

Gov't Resolution No. 95/2007 Revised List of Toxic and Dangerous Chemicals Prohibited for Utilisation

Kato, Jun, Purev-Erdene Ershuu and shohei Ishikawa 'Results of a survey into the internal Environment of Ulaanbaatar's Ger Area household,' presentation, no date.

Mongolia Ministry of Nature and the Environment (2007) *Action Report 2006*.

5-4) 経済活動促進のためのインフラ整備

モンゴル政府『モンゴル国民法』2003年、2004年、2005年、2006年

海外鉄道技術者協力協会(2004)『鉄道マスタープラン実施計画策定支援 最終報告書』

国際協力機構(2004h)『鉄道マスタープラン実施計画策定支援 評価調査結果』

—— (2005h)『モンゴル国 東部幹線道路建設及び道路建設機材整備計画基本設計調査 基本設計調査報告書』

—— (2006h)『モンゴル国インフラ整備プロジェクト形成調査 現地調査報告書』

国際航業株式会社(2007b)『モンゴル国ウランバートル市給水施設改善計画基本設計調査報告書』

電源開発株式会社(2002)『ウランバートル第4火力発電所 改修計画支援開発調査 最終報告書』

Association of Mongolia Road Engineers, Mongolia Ministry of Road, Transport and Tourism, JICA, Infrastructure Development Institute – Japan, Japan Road Association (2006) *Pavement Manual for Community Road with Bituminous Surface Treatment*, September 2006.

JICA and Railway Authority of Mongolia (2004) *Recommendations for Establishing the Mongolian Railway Development Master Plan*.

Ministry of Roads, Transportation and Tourism (2007) *Energy Sector in Mongolia*.

Railway Authority of Mongolia (2004) *Railway Project brief introduction*.

Seueca (2005) *UB Water and Waste water MP 2006*.

World Bank (2007c) *Mongolia Catalyst for Development: Rethinking the Delivery of Infrastructure Service in Mongolia*.

6) その他

鯉淵信一(1999)「モンゴル」、『1999 アジア動向年報』、アジア経済研究所

—— (2002)「モンゴル」、『2002 アジア動向年報』、IDE-JETRO アジア経済研究所

—— (2004)「モンゴル」、『2004 アジア動向年報』、IDE-JETRO アジア経済研究所

—— (2005)「モンゴル」、『2005 アジア動向年報』、IDE-JETRO アジア経済研究所

—— (2006)「モンゴル」、『2006 アジア動向年報』、IDE-JETRO アジア経済研究所

—— (2007)「モンゴル」、『2007 アジア動向年報』、IDE-JETRO アジア経済研究所

国際協力機構(2004i)『JICA 環境社会配慮ガイドライン』

国際協力銀行(2002)『環境社会配慮確認のための国際協力銀行ガイドライン』

小長谷有紀(2002)『遊牧がモンゴル経済を変える日』、出版文化社

清水武則(2006)「モンゴルの対外関係の現状と展望」、『日本とモンゴル』、第40巻 第2号、社団法人日本モンゴル協会

—— (2007)「最近のモンゴル・ロシア関係の動きと資源開発」、『日本とモンゴル』、第41巻 第2号、社団法人日本モンゴル協会

関満博, 西澤正樹編(2007)『モンゴル/市場経済下の企業改革』、新評論

外務省ホームページ <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/mongolia/data.html>

在モンゴル日本大使館（2006）「ウランバートル案内」

——（2007）「数字で見るモンゴル経済」、2007 年 6 月版

——ホームページ http://www.mn.emb-japan.go.jp/japan_year/jp272.html

日本貿易振興会（1995）『新生モンゴル—脱社会主義への挑戦—』海外経済情報センター、
1995 年 3 月

——（2000）『続・新生モンゴル—市場経済移行期の光と影—』海外調査部、2000 年 11 月

——（2001）『モンゴル研究会報告書—新生モンゴルの挑戦—』海外調査部、2001 年 7 月

——（2002）『モンゴル研究会報告書—モンゴル国民経済の基本構造—』海外調査部、2002 年 3 月

——（2003）『モンゴル研究会報告書—安定期に入ったモンゴル経済—』海外調査部、2003 年 3 月

——（2004）『モンゴル研究会報告書—回復しつつある成長趨勢—』海外調査部、2004 年 3 月

山元泰生（2007）『大いなるモンゴル：遊牧の民との対話』、明石書店

JICA（2002）*The Survey Report of the Study of the Living Environment of the Ger Area in Ulaanbaatar Mongolia.*